

若き友へ

1993年4月28日

経済学部教授 高島 均

所感93 - 01 日韓友好のために

過去に捕らわれず、決して忘れず

先日は、久しぶりに貴君と会って、楽しいときを過ごせました。しかし、ずいぶん大事なことが話題になったものの、私は少し酔いがまわっていたせいもあって、いくつかの点に関して、正確に私の考えを伝えられませんでした。貴君は、既に韓国に戻られてしまいましたので、こうして手紙を書くことにしました。

第1に、貴君は、「日韓両国の将来のために、過去に捕らわれるのはよくない」という意見を言われました。私は、貴君と同意見でしたが、その点をあいまいにしたのは、次のように考えているからです。「過去に捕らわれ続ける」事は、その過去が、日本が朝鮮を侵略し植民地としていたという「過去」である以上、当然、韓国（北朝鮮も含めて）（人）にとっては、「恨」の感情を持ち続けることとなり、日本（人）にとっては、「罪悪感」を持ち続け、言いたいことも言えない、と言うこととなります。こうしたネガティブな感

情を土台としては、好ましい両国関係は生まれませんから、その意味では、貴君の言う通りです。しかし、日本人に対して、「日韓両国の将来のために、過去に捕らわれるのはよくない」という意見を言うときは、慎重かつ正確に言わなければなりません。日本人に対して、「過去に捕らわれない」と言い切ると、多くの日本人は、過去の歴史、即ち、「日本が朝鮮を侵略し、植民地とした」という事実そのものさえ、あたかも「存在していない」かの如くに振る舞って構わない、と言うように勘違いする傾向があります。多くのアメリカ人が、長崎・広島における原爆被災の今日まで続く惨状に関して無知であると同様に、いったい、どれほどの日本人が植民地とされた朝鮮において、朝鮮の人々が日本と日本人に抑圧されたかを知っているでしょうか。韓国を訪れる日本人観光客は多いけれど、ミンピ虐殺の現場を訪れ、頭を下げた日本人は、何人いるでしょうか。また、朝鮮人が、元寇の一味として何度かに亘って日本を襲い、日本を悩ませたことを知っている韓国人・朝鮮人は何人いるでしょうか。「過去」は、「歴史としての事実」として、両国民が何時までも、知っている必要があります。また、物心両面における損害は、お金で解決できると言うわけではありませんが、十分に賠償されなければなりません。しかし、だからといって、双方がお互いに相手の落ち度を何時までも責め続ける、と言うのは好ましくありません。韓国（人）がわざわざ日本（人）を責めなくとも、心ある日本人は、何時までも過去の日本（人）の汚点を忘れないでしょう。また、日本（人）の汚点は、日本人自身が清算しない限り、他者（韓国）から言われて謝罪したとしても、清算されずに残ります。韓国（人）がすべきことは、日本（人）に対して、あまり意味のないような責任追及をすることではなく、韓国人にとっての問題、つまり、なぜ朝鮮（人）は、日本の侵略を防ぎ切れず、国の独立を守れなかったのか、と言うことを考えることだと思います。（勿論、だからといって日本人が大きな顔ができる、と言

うわけではありませんが。)日本が朝鮮を植民地にしたという厳然たる事実を決して忘れず、しかし、それに対してネガティブな感情に立脚して何時までもこだわるのではなく、双方が、歴史における自国(民)の汚点或いは失敗を深く反省し、将来の両国関係を築いていくことが大事だと思います。この点で、中国の日本に対する態度は参考になるとと思います。

第2に、貴君は、太平洋戦争が日本の敗戦に終わったとき、東南アジアでは、少なからぬ日本兵が、現地の独立戦争・解放戦争に参加していったのに、なぜ朝鮮にいた日本兵は、そうした行動をとらなかったのか、と私に質問しました。この点に関して、私は正確に返事をしませんでしたので、この手紙で返事をしたいと思います。

太平洋戦争は、日本の天皇制を支えた軍部・高官・政治家達が、「大東亜共栄圏の樹立」を旗印として始めたものです。「大東亜共栄圏の樹立」とは、イギリス・オランダ・フランスなどのヨ・ロッパ列強の植民地とされていたアジアの各地を、これらの国々の支配から解放し、アジアの人々の共存共栄の世界を作るということを意味していました。勿論、太平洋戦争を始めた熱狂的な天皇制支持者達の目的は、これらヨ・ロッパ諸国から解放された地域を、ヨ・ロッパ諸国に替わって、日本が支配することでしたが、その真の目的は、日本の多くの人民には隠されていました。多くの日本人は、自分たちが熱狂的な天皇制支持者達の私利私欲のために利用されているとも知らず、「アジア諸国をヨ・ロッパ列強の暴力から解放する」という『大義』のために、命をかけて兵隊となっていたのです。従って、少なからぬ日本兵にとって、日本が戦争に敗れた後、現地の人々のヨ・ロッパ諸国に対する独立と解放を求める戦いに参加していくということは、何のためらいもなかったのです。しかし、朝鮮にいた日本兵にとって、状況は全く違いました。何故なら、朝鮮を植民地としていたのは、イギリスでもフランスでもオランダでもなく、他ならぬ日本だったからです。「大東亜共栄圏樹立」の為に兵隊となった日本兵が、日本軍が敗れた後、朝鮮の独立戦争に参加することは、自らの否定以外の何物でもなく、従って、朝鮮(半島)においては、インドネシア・ビルマ・ベトナムなどの東南アジアにおいて少なからぬ旧日本兵が取ったような動きは起きなかったのです。

日韓両国(民)にとって、非常に大事であるとともにとてもデリケートな問題に関して、率直に私の意見を書きました。必ずしも、貴君は私の見解に全面的に賛同できないかも知れませんが、私の善意は信じてもらえらると思います。近い将来、東京またはソウルで再会できることを願っています。ご活躍を祈ります。